

# 森の癒しと雑木林保育のこれから を考える

～身近な林は地域住民が利用と保育の主役に～

苫東コモンズは、勇払原野の一角を占める苫東地域で、コモンプール資源「ハスカップの保全」と、「美しい雑木林の実現」を目指した保育作業および利活用をすすめるという、二つの役割を担ってきました。

とくに後者の雑木林では、森林公園を目指し苫東コモンズが保育中の遠浅の大島山林で、新緑や紅葉の時期のみならず、落葉期や積雪期にも散歩する人が増えてきつつあります。その一方で、林の散策が人の心を癒すという一面が、うつ病などのほか認知症や子供の発達に良い効果を持つとして注目され、精神科医の瀧澤紫織・当NPO代表理事の野幌森林公園の活動も、コロナ禍のなかの森林セラピーとして新聞のコラムで紹介されました。

このような状況を背景に、森林の保育に携わる当事者として、あらためて「森や林と人のこころ」、そしてその森づくりや保育方法について考えるフォーラム（勉強会）を開催することとしました。今回のフォーラムでは、勇払原野の苫東コモンズにも数回にわたり足を運んだ経験があり、**世界各地のコモンズの研究**を続けている斎藤暖生・東大癒しの森研究所長に、富士山麓の山中湖畔にある「癒しの森づくり」の足取りをご講演いただきます。これにあわせ、近年脚光を浴びている「コモンズの思想」、さらに斎藤所長が手がけている「**地域の薪生産**」の現状分析などについても幅広くお話をいただき、わたしたちの「森づくり」と**保育修景**のあるべき方向、これからの**薪づくり**についても質疑と意見交換を行います。

詳細は下記のとおりです。減多にない機会ですので、関心のある方々へのご参加を呼びかけてくださるようお願いいたします。

\*本フォーラムは、一昨年から『森のメンタルヘルスと林の手入れ ～身近な林は地域住民こそ保育の主役～』をテーマとして計画し、今年も冒頭に瀧澤代表理事と斎藤さんが基調講演を行って、鈴木玲氏が野幌森林公園などでの事例報告をする予定でしたが、コロナ禍下の医療の現状から瀧澤先生が今回も参加が出来なくなったため、やむなく内容を縮小したものです。

## 記

### 1. 開催期日

令和4年10月8日（土曜日）午後2時から4時半まで

### 2. 開催場所

苫小牧市市民活動センター 2階 研修室C

（苫小牧市若草町3丁目3-8 電話 0144-32-3544）

### 3. 講師

講演「癒しの森づくりは何をつくってきたのか」

齋藤 暖生 氏 東京大学大学院農学生命科学研究科附属富士癒しの森研究

所

《講師プロフィール》

1978年岩手県生まれ。京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了。現在、東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林講師（富士癒しの森研究所所長。専門：新会陰政策学、植物・菌類民俗。『コモンズと地方自治』（共著、日本林業調査会、2011年）『森林と文化』（共編著、共立出版、2019年）『森林の歴史と未来』（共著、朝倉書店、2019年）『東大式癒しの森のつくり方』（共著、築地書館、2020年）ほか。

### 4. 申し込みとお問い合わせ

NPO 苫東環境コモンズ事務局 草苺

kt-884-556@nifty.com

携 帯； 090-6999-2765

### 5. 参考

\*勉強会の視点

- ① 森や林は、そもそも人の心身にとってどのような関係をもっているのか再考
- ② 特に、森や林の癒し効果は現在どのように活用されているのか
- ③ 東大癒しの森のねらいと全貌
- ④ 東大癒しの森と大島山林の共通性、応用性
- ⑤ 齋藤さんから見た勇払原野のコモンズ
- ⑥ 薪づくり、薪需要、その対応
- ⑦ 欧米における森と人の付き合いと日本の森林セラピー
- ⑧ 荒れた身近な民有林を快適な森林公園に変えていくための方向性
- ⑨ その他、森林散策はコロナ禍で役だったのか、ほか

\*これまで実施したコモンズに関するフォーラム

第1～6回 北海道開発協会HP <https://www.hkk.or.jp/kenkyusho/chosa.html>

第7回 [https://www.hkk.or.jp/kouhou/file/no681\\_closeup-4.pdf](https://www.hkk.or.jp/kouhou/file/no681_closeup-4.pdf)

第8回 [https://www.hkk.or.jp/kouhou/file/no690\\_closeup-1.pdf](https://www.hkk.or.jp/kouhou/file/no690_closeup-1.pdf)

以上